

社会科 8年 地理的分野 年間指導計画

月	単元・題材	学習内容	時間
4	第5節 南アメリカ州 1 南アメリカ州の自然環境 2 多様な民族・文化と人々の生活 3 大規模化する農業と 成長する工業 4 ブラジルにみる開発と 環境保全	1 地形や気候を中心に、南アメリカ州の国々や自然などの基本的な特色を理解する。 2 南アメリカの文化の特色をその国々の歴史的背景に着目しながら理解する。 3 南アメリカ州の農業や工業の発展の特色について、開発に着目しながら理解する。 4 アマゾンをはじめとする開発が地域の環境や人々の生活に与えた影響について理解し、より良い地域の在り方について考える。	5
	第6節 オセアニア州 1 オセアニア州の自然環境 2 移民の歴史と 多文化社会への歩み 3 他地域と結び付いて 発展する産業	1 地形や気候を中心に、オセアニア州の国々や自然などの基本的な特色を理解する。 2 オーストラリアにおけるヨーロッパの影響と多文化社会への転換について理解する。 3 オーストラリアやニュージーランドを中心としたオセアニアの産業の特色を理解する。	4
4 5	第3部 日本のさまざまな地域 第2章 日本の地域的特色 1 山がちな日本の地形 2 川がつくる地形と 海岸や海洋の特色 3 日本の気候 4 日本のさまざまな自然災害 5 自然災害に対する備え 6 日本の人口 7 日本の資源・エネルギーと電力 8 日本の農業・林業・ 漁業とその変化 9 日本の工業とその変化 10 日本の商業・サービス業 11 日本の交通網・通信網 12 さまざまな地域区分	1 日本の山地や造山帯の特色を理解する。 2 日本の川と平野との関係や特色を理解する。 3 日本の気候の特色や地域による違いを理解する。 4 日本で発生する自然災害の特色を理解し、地形や気候など自然環境との関連や課題を考える。 5 日本で取り組まれている防災や減災の取り組みを理解し、自然災害に対する備えを考える。 6 日本の人口分布や年齢別人口構成の特色を理解し、人々の生活に及ぼす影響を考える。 7 日本における資源の有効活用や持続可能な社会の実現に向けてのエネルギー活用について考える。 8 日本の農業・林業・漁業の特色や課題、変化を理解する。 9 日本の工業地域の分布や工業出荷額をもとに、日本の工業の特色と変化、課題を理解する。 10 日本の商業・サービス業の現状と課題を理解する。 11 交通網や通信網が発達することによって起こった、世界や日本の地域間の結びつきの変化を理解する。 12 日本を区分するさまざまな視点を知り、さまざまな地域区分があることを理解する。	12
	第1章 身近な地域の調査 1 調査テーマを決めよう 2 調査方法を考えよう 3 野外調査を実行しよう 4 調査を深めて結果を 発表しよう	1 地域に対する疑問を整理して調査するテーマを設定し仮説を立てる。 2 調査を進めるための調査項目や調査方法を考え、野外調査の準備をする。 3 野外調査と聞き取り調査の方法を確認する。 4 調査した結果をまとめたり、資料を関連させたり確かめたりして、地域の特色や課題をとらえる手法を知る。 ※ 地形図の読み取り方について理解する。 ※ 野外調査について授業で実施が難しい場合は、夏季休業中の課題とする。	6

9	<p>第2章 日本の諸地域</p> <p>第1節 九州地方</p> <p>1 九州地方の自然環境</p> <p>2 火山と共にある 九州の人々の生活</p> <p>3 自然を生かした 九州地方の農業</p> <p>4 都市や産業の発展と自然環境</p> <p>5 南西諸島の自然環境と 人々の生活や産業</p>	<p>1 九州地方を概観し、自然や人々の生活の特色を理解する。</p> <p>2 火山の恵みと被害の両面を理解し、その利点の生かし方や防災への取り組みを考える。</p> <p>3 温暖な気候や火山活動の影響を受けた土地を生かした農業の実態をとらえ、その特色を理解する。</p> <p>4 アジアに近いという特色を生かして発展してきた都市や工業の歴史をとらえ、その特色を理解する。</p> <p>5 九州地方の基本的事項を確認するとともに、地理的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。</p>	5
9	<p>第2節 中国・四国地方</p> <p>1 中国・四国地方の自然環境</p> <p>2 交通網の整備と 人々の生活の変化</p> <p>3 瀬戸内海の水運と工業の発展</p> <p>4 交通網を生かして 発展する農業</p> <p>5 人々を呼び寄せる 地域の取り組み</p>	<p>1 中国・四国地方を概観し、自然や人々の生活の特色を理解する。</p> <p>2 本州四国連絡橋や高速道路の整備による地域の人々の生活の変化について考える。</p> <p>3 海上交通の利点を生かした瀬戸内地域の工業の特色について考える。</p> <p>4 他地域との結びつきを生かして全国展開を進めている瀬戸内や南四国の農業の特色について考える。</p> <p>5 過疎化が進む山陰地域の、交通網の整備による変化について考える。</p>	5
9	<p>第3節 近畿地方</p> <p>1 近畿地方の自然環境</p> <p>2 琵琶湖の水が支える 京阪神大都市圏</p> <p>3 阪神工業地帯と 環境問題への取り組み</p> <p>4 古都京都・奈良と 歴史的景観の保全</p> <p>5 環境に配慮した林業と漁業</p>	<p>1 近畿地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。</p> <p>2 京阪神大都市圏の水源である琵琶湖の環境保全の重要性について考える。</p> <p>3 阪神工業地帯の現状や課題を追究し、環境保全の取り組みについて考える。</p> <p>4 京都や奈良の町なみの変化や歴史的景観を守る取り組みについて考える。</p> <p>5 近畿地方の基本的事項を確認するとともに、地理的な見方・考え方を働かせて学習の成果を表現する。</p>	5
10	<p>第4節 中部地方</p> <p>1 中部地方の自然環境</p> <p>2 中京工業地帯の発展と 名古屋大都市圏</p> <p>3 東海で発達する さまざまな産業</p> <p>4 内陸にある中央高地の 産業の移り変わり</p> <p>5 雪を生かした北陸の産業</p>	<p>1 中部地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。</p> <p>2 中京工業地帯や東海工業地域の特色をとらえ、輸送機械工業がさかんな理由を考える。</p> <p>3 都市向けの農業が発達した理由を考える。</p> <p>4 時代の変化とともに移り変わってきた中央高地の産業の実態をとらえる。</p> <p>5 北陸で稲作や地場産業がさかんな理由を考える。</p>	5

10	<p>第5節 関東地方</p> <p>1 関東地方の自然環境</p> <p>2 多くの人々が集まる 首都、東京</p> <p>3 東京大都市圏の 過密問題とその対策</p> <p>4 人口の集中と 第3次産業の発展</p> <p>5 臨海部から内陸部へ 移りゆく工場</p> <p>6 大都市周辺の農業と 山間部の過疎問題</p>	<p>1 地図や景観写真、雨温図などを活用して関東地方を概観し、自然環境や人々の生活の基本的な特色を理解する。</p> <p>2 様々な資料を活用して日本や世界における、東京の役割を考える。</p> <p>3 人口が集中することによって発展した産業の特色を考えるとともに、サービス業や商業がさかんな理由を、人口や交通網とのかかわりから考える。</p> <p>4 人口が集中することによって発展した産業の特色を考える。</p> <p>5 関東地方の工業の発展や移り変わりを、人口の特色に着目して考える。</p> <p>6 大消費地と深く関連する関東地方の農業の特色や山間部での過疎問題について考える。</p>	6
10	<p>第6節 東北地方</p> <p>1 東北地方の自然環境</p> <p>2 伝統行事と生活・文化の変化</p> <p>3 稲作と畑作に対する 人々の工夫や努力</p> <p>4 果樹栽培と水産業における 人々の工夫や努力</p> <p>5 工業の発展と 人々の生活の変化</p>	<p>1 東北地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。</p> <p>2 祭りをはじめとする東北地方の伝統文化を生かした観光業の発展とこれからの考える。</p> <p>3 冷夏などの厳しい自然環境を克服し発展させてきた東北地方の稲作や畑作の努力について考える。</p> <p>4 果樹栽培や漁業の発展がもたらした地域の人々の生活の変化について考える。</p> <p>5 工業の発達もたらした人々の生活の変化について考える。</p>	5
11	<p>第7節 北海道地方</p> <p>1 北海道地方の自然環境</p> <p>2 雪と共にある 北海道の人々の生活</p> <p>3 厳しい自然環境を 克服してきた稲作</p> <p>4 自然の恵みを生かす 畑作や酪農、漁業</p> <p>5 北国の自然を生かした観光業</p>	<p>1 北海道地方を概観し、自然や人々の生活の特色を理解する。</p> <p>2 北海道の人々の雪と関わる取り組みや工夫を理解する。</p> <p>3 厳しい寒さや農業に適さない土地という悪条件を乗り越えてきた稲作の歴史を考える。</p> <p>4 大規模に展開する北海道の畑作や酪農、漁業の特色を考える。</p> <p>5 北海道の豊かで特色ある自然環境を生かして発達した観光業の特色を考える。</p>	5
12	<p>第4部 地域の在り方</p> <p>第1章 地域の在り方</p> <p>1 課題を把握しよう</p> <p>2 地域をとらえよう</p> <p>3 課題の要因を考察しよう</p> <p>4 課題の解決に向けて 構想しよう</p> <p>5 課題の成果を発信しよう</p>	<p>1 持続可能な地域の在り方を構想するために、地域の地理的な課題を把握し、その解決に向けた追究の問い（テーマ）を設定する。</p> <p>2 追究のテーマに基づいた調査計画を立てるとともに、諸資料から地域の実態を把握する。</p> <p>3 調査結果を分析したり、他地域の状況と比較したりすることを通して、地域の課題の要因を考察する。</p> <p>4 地域の課題を解決するために必要な取り組みを考え、よりよい地域の在り方を主体的に考察・構想したり、議論したりする。</p> <p>5 構想の成果を分かりやすく説得力ある伝え方でまとめ、発表会や提言などの形で発信する。</p>	6